

- 第9期第1回研究費部会(本年4月24日開催)において、御了承。

【当面の審議事項】

- ・第8期研究費部会の提言に基づく科研費改革の推進方策について、「基礎科学力の強化に関するタスクフォース」のまとめ、日本学術振興会の窓口で受け付けた意見・要望を踏まえ、当面、以下の事項(次ページ)を中心に審議。

【審議体制及び当面の審議スケジュール】

- ・研究費部会及び科学研究費補助金審査部会の下に「科研費改革に関する作業部会」を設置。
- ・4月～8月までの間、概算要求関連事項などから優先的に検討。
- ・作業部会からの検討状況を7月及び8月の研究費部会に報告。その内容を踏まえ改革の方向性を審議。

- 「科研費改革に関する作業部会」は、5回にわたり検討を実施。

開催日	主な議事	
4月24日(月) 17:00～19:00	「作業部会における検討事項について」	
5月24日(水) 16:30～18:30	「若手研究(A)の基盤研究種目群等への統合について」 「国際共同研究の推進について」	等
6月 5日(月) 15:00～17:00	「基盤研究(B)の助成規模・意義等について」 「国際共同研究の推進について」 「応募機会の多様化・柔軟化について」	等
6月26日(月) 16:00～18:00	「基盤研究(B)の助成規模・意義等について」 「国際共同研究の推進について」 「新学術領域研究の見直しについて」	等
7月24日(月) 10:00～12:00	「概算要求の考え方について」 「新学術領域研究の見直しについて」	等

科研費改革に関する作業部会における検討状況について (2/2)

※検討状況のうち、主に「研究費部会」の調査審議事項に関するものを抜粋・要約

主な事項	主な論点	主な検討状況(要約)
◆「科研費若手支援プラン」推進の在り方		
・「若手研究A」の「基盤研究」への統合に伴う対応	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の「若手A」で支援してきた研究者を「基盤研究」体系でどのように支援していくべきか。 ・「基盤研究B」の今日的意義・重要性をどのように考えていくべきか。 	<p>集中的に議論を進め、概算要求に当たり充実に努めるべき事項として整理。 ※資料2関係で別途説明【一定の結論】。</p>
・独立支援の試行の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・試行段階の取組をどのように展開していくべきか。 	
◆大型研究種目の在り方		
・「新学術領域研究」の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・「領域型研究」支援の在り方はどうあるべきか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「見直しの観点(案)」を踏まえ議論を開始。「見直しに当たっての前提」を作業部会で確認し、それらを踏まえた議論を継続。
・「特別推進研究」見直しに伴う対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別推進研究」の応募、採択見込みの変化や、「基盤研究S」との重複応募状況等を踏まえた両種目の今日的意義・役割はどうあるべきか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度公募における「特別推進研究」の制度見直し後の応募・採択動向を踏まえた議論とすることを確認。
◆応募機会の多様化・柔軟化の在り方		
・挑戦を促すための取組、重複制限の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の継続性に配慮した措置はどうあるべきか。 ・重複制限をどのように見直していくことが適切か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「研究の継続性」については、科研費が競争的資金である以上継続性が絶たれてしまうリスクは避けられない。 ・そのため、科研費制度の枠内で不採択者に対する別途支援措置を検討することは慎重であるべき。 ・挑戦を促す取組としては、前期の提言も踏まえつつ、「重複制限の在り方」を軸に検討するべき。ただし、審査システム改革で応募動向が変化する状況も確認する必要。
◆国際化の推進の在り方		
・「国際共同研究加速基金」のフォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際共同研究加速基金」の制度の検証を踏まえ、どのような改善策を講じるべきか。 ・「海外学術調査」の課題を踏まえ、どのような改善策を講じるべきか。 	<p>集中的に議論を進め、概算要求に当たり充実に努めるべき事項として整理。 ※資料2関係で別途説明【一定の結論】。</p>